

日本脳炎の予防について

日本脳炎とは

日本脳炎ウイルスの感染によっておこる中枢神経（脳や脊髄など）の疾患です。

症状

ウイルスを持つ蚊に刺された後も症状なく経過する（不顕性感染）場合がほとんどですが、症状が出る場合には、6～16日間の潜伏期間の後に、数日間の高熱、頭痛、嘔吐などで発病し、引き続き急激に、光への過敏症、意識障害（意識がなくなること）、神経系障害（脳の障害）を生じます。

大多数の方は、無症状に終わりますが、脳炎を発症した場合の死亡率は、20～40%といわれており、幼児や高齢者では危険が高くなります。

感染経路

ヒトからヒトへの感染はなく、ブタなどの動物の体内でウイルスが増殖された後、そのブタを刺したコガタアカイエカ（水田等に発生する蚊の一種）などがヒトを刺すことによって感染します。

※ 防蚊対策について

コガタアカイエカは水田・沼地で発生し、活動範囲（飛行距離）は8km程度移動したという報告もありますが、おおむね2km前後とされています。

また、コガタアカイエカの活動は日没後になります。

予防対策

（1）蚊に刺されない工夫

- ・長そで、長ズボンの着用
- ・水たまりの除去（蚊の発生が起りにくい環境づくり）
- ・防虫スプレーや防虫薬をこまめに使用するなど

（2）日本脳炎ワクチンの予防接種

・平成25年度の日本脳炎ワクチン定期予防接種は、3歳と4歳、第1期の定期接種が完了していない7歳又は8歳、9歳又は10歳、18歳が積極的勧奨の対象です。

（3）十分な休息

- ・休養、栄養、睡眠を十分にとり、過労をさけるよう健康管理につとめる。



年別日本脳炎患者発生数

年	H18	H19	H20	H21	H22	H23	H24
鹿児島県	0	0	0	0	0	0	0
全国	7	10	3	3	4	9	2

内容※本県の患者報告は、平成7年に1名報告

奄美市 健康増進課 予防係
電話:52-1111(内線1142)